

〔概要〕

近年、地域に経済的効果をもたらすという視点から、地域資源は地域振興や地域活性化の重要な要素として捉えられており、観光資源としての活用が注目されている。現在、観光客の好奇心が観光地での「体験」、加えて「学習」と関連するようにもなったため、観光客を迎える立場にある地域住民のガイド活動が行われており、観光ボランティアガイド活動が盛んになっている。本研究では、富山県富山市内の観光ボランティアガイド組織を対象に、育成方法と人材確保方法に注目し、聞き取り調査を用いて、観光ボランティアガイド組織の維持要因について検討した。育成方法については、発足から年が経つにつれて育成方法の簡略化が起こっていることが明らかとなり、約10～20名規模の観光ボランティアガイド組織の育成方法としては、必ずしも確立した方法がなくてはならないというわけではないことが分かった。また、人材確保方法としては、発足当初はある程度のメンバーを確保するために広報やチラシで募集を行う組織と、口コミで募集する組織があった。しかし、年が経つにつれて口コミの募集が増えることが分かった。発足後は組織を維持できればよいと考え、広報に掲載するよりは、身近な人を対象にメンバーを募る方がよいと考え、このように変化したのではないかと思われる。人材確保のためには、社会的ネットワークを構築しておくことが重要であるが、人材確保の方法を見直すべきであると考えられる。

キーワード：観光ボランティアガイド，維持要因，育成方法，人材確保